

FUJITSU Integrated System

PRIMEFLEX for Cloud CRB200 V1(Hyper-V,RX2530/DX)

PRIMEFLEX for Cloud CRB500 V1(Hyper-V,RX2530/DX)

ご使用上の留意・注意事項 / ドキュメント修正事項

FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud CRB200 V1(Hyper-V,RX2530 /DX), PRIMEFLEX for Cloud CRB500 V1(Hyper-V,RX2530/DX)(以降 PRIMEFLEX for Cloud CRB200, PRIMEFLEX for Cloud CRB500)に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

また、本製品のマニュアルの内容に修正事項がございますので、ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、対象となるドキュメントをご覧になる際は、下記に示します内容をあわせてお読みくださいますようお願いいたします。

2017年12月
富士通株式会社

■ ご使用上の留意・注意事項

1. ダウンロードサイトのご案内

各種ドライバや BIOS、ファームウェア、高信頼性ツールなどの修正モジュールを「FUJITSU Integrated System」ページ(以下 URL)の「本商品をご使用中のお客様」-「ダウンロード」にて提供しております。システム安定稼働のため、常に最新の修正モジュールを適用して運用されることをおすすめします。なお、最新モジュールのダウンロードおよび適用作業につきましては、お客様自身で実施いただきますようお願いいたします。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/integrated-systems/primeflex-cloud/>

2. ServerView Operations Manager における、サーバ登録方法について

ServerView Operations Manager にサーバを登録する場合、「サーバ」を選択して登録してください。「自動」または「Hyper-V」を選択して登録しないでください。誤って登録した場合は登録したサーバを一旦削除し、再登録を実施してください。

なお、本機能に対する修正対応については、「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud」ページ、または、Support Desk-Web の製品ページでお知らせいたします。

3. ServerView Resource Orchestrator Cloud Edition の運用開始前の設定について

以下の製品が出荷時にインストールされている環境については、必要に応じて、以降に示す設定を実施した上で運用を開始してください。

- ServerView Resource Orchestrator Cloud Edition (以降 ROR CE)
- TRIOLE クラウドミドルセット B セット

■ 運用開始前の設定項目

ROR CE で申請プロセスを使用する場合には、申請プロセスおよび申請プロセスから送信されるメールの設定が必要です。

以下のマニュアルに記載されている手順に従って、設定を実施してください。

「FUJITSU Software ServerView Resource Orchestrator Cloud Edition V3.2.0

導入ガイド Windows/Linux」

- 9.1.6 申請プロセスから送信されるメールの設定
- 9.2 申請プロセスの設定

重要

- 申請プロセス機能で指定する、SMTP サーバの設定を実施した場合、ROR CE が SMTP サーバと通信できない状況で、以下のような現象が発生する場合があります。

【現象】

ROR コンソールのリソースタブ以外のタブを表示すると、ブラウザ画面に“500 Internal Server Error”と記載されたエラー画面が表示される場合があります。

【対処】

ROR CE の使用する SMTP サーバが起動状態であることを確認した上で、インフラ管理用仮想マシンを再起動してください。

なお、本機能に対する修正対応については、「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud」ページ、または、Support Desk-Web の製品ページでお知らせいたします。

4. ETERNUS SF Storage Cruiser のアクセスパスの状態表示について

ETERNUS SF Storage Cruiser 16.1 以降を使用している場合、ETERNUS SF Storage Cruiser の Web コンソールでアクセスパスの状態が Warning で表示されます。

また、この影響でスイッチのポート情報が正しく表示されません。

ETERNUS SF Storage Cruiser の版数により、対処方法が異なります。
版数を確認の上、該当する対処を実施してください。

a) 16.1、および 16.2 の場合

16.3 へアップデートし、「b) 16.3 の場合」の対処を実施してください。

b) 16.3 の場合

ETERNUS SF Storage Cruiser に修正[T012213XP-08]を適用してください。

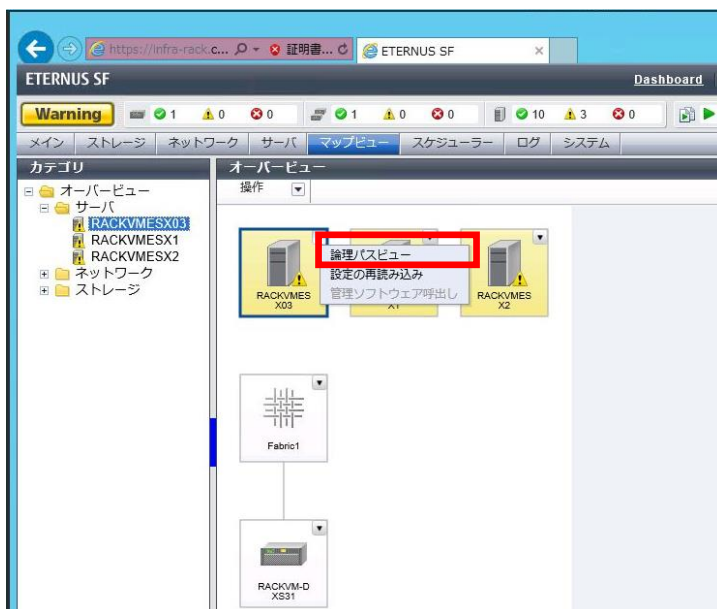
修正適用後、結線のないポートに対してホストアフィニティ設定がされているパスが赤く表示されるようになります。

本製品の動作上、問題はございませんが、異常が発生していると誤認する恐れがございますの

で、[パス表示修正手順]を実施し、表示を修正してください。

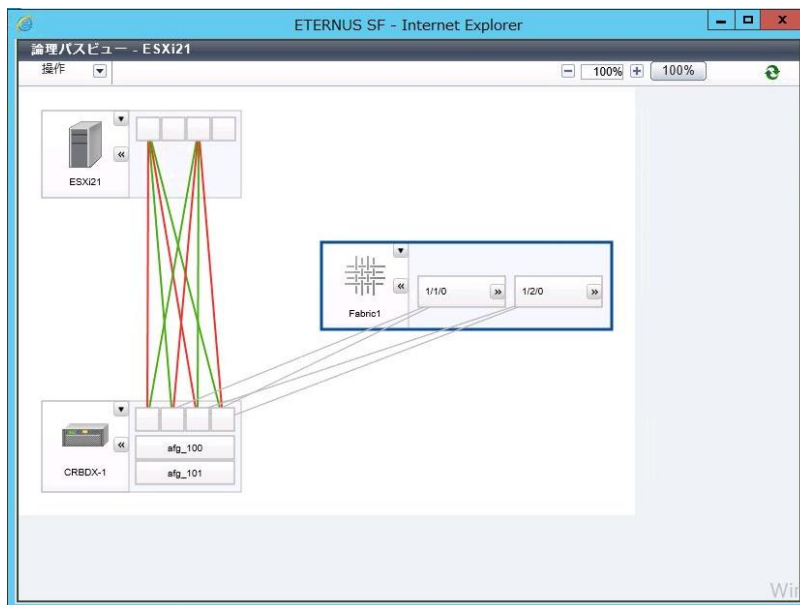
■ パス表示修正手順

1. インフラ管理 VM に CRB 管理者アカウントでログインします。
2. ETERNUS SF Storage Cruiser Web コンソールで、修正適用後の状態を確認します。
 - (1) ETERNUS SF Storage Cruiser に IE を使用してログインします。
 - (2) [マップビュー]タブを選択します。
 - (3) 右側オーバービュー欄に表示されているサーバの右上▼をクリックし、[論理パスビュー]を選択します。



- (4) 表示された[論理パスビュー]画面で、赤く表示されている論理パスがあることを確認します。

この赤いパスが、削除対象のパスとなります。赤く表示されているパスが存在しない場合(すべて緑)、サーバ、ならびにストレージ右上▼をクリックし、[設定の再読み込み]をクリックします。



3. ETERNUS の設定を変更します。

- (1) ETERNUS にアカウント(root)でログインします。
ETERNUS が複数台存在している場合、それぞれについて実施します。
- (2) [接続性]タブをクリックし、左側カテゴリー欄-[接続性]を選択し、以下手順(3)~(7)をホストグループごとに実施します。
- (3) 接続設定欄の一番左側チェックボックス口をチェックし、右側アクション欄の[ホストアフィニティ設定]をクリックします。
- (4) [ホストアフィニティ]画面で、ホスト-CA ポート接続の hsg_xxxP0、または hsg_xxxP1 右横の[編集]ボタンをクリックします。(本作業は hsg_xxxP0,hsg_xxxP1 の両方に対して実施)
- (5) CA ポート選択画面で、以下の表を参照して不要な CA ポートのチェックを外して、[OK]ボタンをクリックします。

hsg_xxxP0	
CA ポート	チェックの有無
CM#0 CA#1 Port#0	
CM#0 CA#1 Port#1	チェックを外す
CM#1 CA#1 Port#0	
CM#1 CA#1 Port#1	チェックを外す

hsg_xxxP1	
CA ポート	チェックの有無
CM#0 CA#1 Port#0	チェックを外す
CM#0 CA#1 Port#1	
CM#1 CA#1 Port#0	チェックを外す
CM#1 CA#1 Port#1	

- (6) CA ポート選択画面で、[設定]ボタンをクリックします。
- (7) ホストアフィニティ設定結果画面で、[完了]ボタンをクリックします。

4. ETERNUS で実施した変更を ETERNSU SF Storage Cruiser に反映します。

- (1) 手順 2 を参考に、[論理パスビュー]画面を開きます。
- (2) サーバ、ストレージの右上▼をクリックし、[設定の再読み込み]を選択します。

5. 赤く表示されているパスが存在しないことを確認します。

修正済みの項目

1. サーバと CFX2000 間の FCoE 接続のパス切断後の復旧方法について

サーバと CFX2000R 間のパスが切断され、サーバの片パス(CNA FCoE ポート)が Link down 状態になった後、復旧作業を実施してもサーバの CNA FCoE ポートが Link up 状態に復旧しない場合があります。

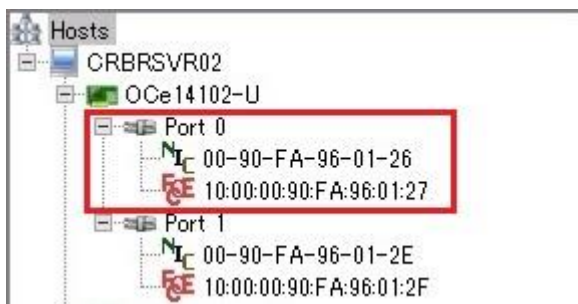
例：物理的なケーブルを抜いて Link Down が発生し、ケーブルを挿して復旧した場合

上記の状況に該当する場合は復旧手順を実施することで、サーバの CNA FCoE ポートを Link up 状態へ復旧することができます。

■ 確認方法

1. OCManger からの確認方法

OCManager 画面で CNA#nPort#0 FCoE ポートが赤文字表示(Link down 状態)となっていることを確認します。



2. CFX2000 からの確認方法

CFX2000R へ telnet 接続し、下記コマンドで、ファイバーチャネルファブリックのネームサーバエントリ情報を表示し、表示されている情報に当該サーバの WWPN が含まれていない(サーバとのパス接続ができていない)ことを確認します。

```
<例>
C08TAX3-1(1/1/1)# show fcf fcns
[FCF:      a]
FCID      WWPN                               FC-4 TYPEs
-----
0x010105  50:00:00:e0:da:0e:9d:30  scsi-fcp    <- ETERNUS
CM#0CA#0Port#0
0x010004  50:00:00:e0:da:0e:9d:20  scsi-fcp    <- ETERNUS
CM#1CA#0Port#0
0x010302  10:00:90:1b:0e:32:3b:e1  scsi-fcp    <- Server#3 CNA#0Port#0
0x010403  10:00:90:1b:0e:32:3b:a1  scsi-fcp    <- Server#2 CNA#0Port#0
0x010201  10:00:90:1b:0e:32:39:31  scsi-fcp    <- Server#1 CNA#0Port#0
[FCF:      b]
FCID      WWPN                               FC-4 TYPEs
-----
```

■ 復旧方法

1. CFX2000R に telnet 接続し、下記コマンドを実施します。

```
C08TAX3-1(1/1/1)# config
C08TAX3-1(1/1/1)(config)# time auto interval 10m
C08TAX3-1(1/1/1)(config)# commit
```

2. パスの接続が復旧していることを「■ 確認方法」に従って実施してください。

※ CFX2000 のファームウェア V02.40 NY0056 以降で問題が解決されています。

2. ServerView Resource Orchestrator Cloud Edition におけるキャパシティプランニング機能について

ServerView Resource Orchestrator Cloud Edition (TRIOLE クラウドミドルセット B セット含む)において、現在キャパシティプランニング機能を使用することができません。

※ 以下の製品で問題が解決されています。

ServerView Operations Manager for Windows V7.02.02 以降

3. ServerView Resource Orchestrator においてコンソールのログアウト時に出力されるエラーについて

ServerView Resource Orchestrator コンソールからログアウトすると、ブラウザ画面に“Bad Request”と記載されたエラー画面が表示されます。本現象が発生しても、コンソールからのログアウトは正常に完了しているため問題ありません。

なお、再度ログインを実施する場合は、エラーが表示されたブラウザを閉じ、新しく起動したブラウザから再度ログインしてください。

※ 以下の製品で問題が解決されています。

ServerView Operations Manager for Windows V7.02.02 以降

■ ドキュメント修正事項

1. 「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud CRB200V1(Hyper-V, RX2530/DX), PRIMEFLEX for Cloud CRB500V1(Hyper-V, RX2530/DX) 利用ガイド」への訂正事項

- 「2.2.9 フェールオーバークラスターの起動」の序文の直後に、以下の重要記事を追記いたします。

以下にフェールオーバークラスターの起動について説明します。
通常、管理兼業務サーバの起動に合わせ、自動起動します。

重要

- フェールオーバークラスターを構成するサーバ数が5サーバ以上の構成の場合、この時点でフェールオーバークラスターは起動しません。

構成するサーバの過半数以上のサーバと通信可能となった時点で、自動起動します。

「2.2.13 業務サーバの起動」の実施し、過半数以上のサーバを起動した後、本手順を再度実施してください。

■ 「2.2.12 インフラ管理用仮想マシンの起動」に重要を追加します。以下に読み替えて作業を実施してください。

以下にインフラ管理用仮想マシンの起動について説明します。

重要

- 以下の製品が出荷時にインストールされている環境では、システムの起動完了およびリモートデスクトップ接続が可能となるまでに、約 20 分程度遅延する場合があります。
 - ServerView Resource Orchestrator Cloud Edition
 - TRIOLE クラウドミドルセット B セット

1. クライアント端末から、管理兼業務サーバ 1 の管理 OS にリモートデスクトップ接続でログインします。

項目	入力値
IP アドレス／名前	管理 OS の IP アドレス
ユーザー名	<ドメイン名>¥ administrator
パスワード	管理者パスワード

2. デスクトップ画面左下、[スタート] ボタンを選択し、プログラム一覧から [サーバーマネージャー] を開きます。
3. [サーバーマネージャー] 画面右上の [ツール] プルダウンメニューから [フェールオーバークラスターマネージャー] を選択します。
4. [フェールオーバークラスターマネージャー] の左側ツリーから、[役割] を選択し、クラスターに登録されている管理用仮想マシンを表示させます。
5. インフラ管理用仮想マシンが起動していなければ、インフラ管理用仮想マシンを選択した状態で右クリックし、表示されるメニューで[開始] を選択します。
6. インフラ管理用仮想マシンの状態が [実行中]に移行したことを確認します。
7. インフラ管理用仮想マシンを選択した状態で右クリックし、表示されるメニューで[接続...] を選択します。
8. ログイン画面(サインインするには [Ctrl]+[Alt]+[Del] キーを押してください)の画面が表示されることを確認します。

■ 「1.2.1 用語解説」の「ホスト OS」の修正事項

誤:各サーバブレード

正:各サーバ

■ 「1.2.1 用語解説」の「コンバートドファブリックスイッチ」を以下に読み替えてください。

コンバートドファブリックスイッチは、富士通製のファブリック機能に対応した 40/10 Gbps のボックス型イーサネットスイッチです。本製品のネットワークスイッチでは、コンバートドファブリックスイッチ(CFX2000)を複数組み合わせ、仮想的に 1 台のスイッチを構成する富士通独自のイーサネットファブリック、コンバートドファブリックネットワーク(C-FAB)を利用します。これにより、高速・広帯域で、高信頼・高可用なネットワークを形成することができます。

■ 「1.4.2 業務専用サーバ」の修正事項

誤:最大 4 台(管理兼業務サーバと合わせて最大 6 台)

正:最大 2 台(管理兼業務サーバと合わせて最大 4 台)

■ 「6.3.2.5 保守対象ノードの停止」の修正事項

誤: 7. サーバブレード前面の電源ランプがオレンジ色になっていることを確認します。

正: 7. サーバ前面の電源ランプの右端が緑色に点灯していることを確認します。

■ 「6.4.3 サーバ(ホットプラグ非対応部品)」の「(2) 部品交換後の作業」を以下に読み替えてください。

1. ID ランプが点灯している場合は、ID ランプを消灯します。
2. 交換部品に応じて、作業を実施します。
3. サーバのシステムボードを交換した場合、ServerView Infrastructure Manager サーバのプロファイル再適用が必要です。『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager ユーザーズマニュアル』の[6.4 機器の保守後の操作]を参照してサーバのプロファイル再適用を実施してください。
4. シリアル番号等が変更された場合、ServerView Infrastructure Manager を設定します。『ServerView Infrastructure Manager ユーザーズマニュアル』の[4.2.2.4 [ラック]画面]を参照し、機器プロパティの編集を実施してください。
5. 交換を終了したサーバを起動します。
起動方法は「6.3.2 サーバの再起動を伴う活性保守 (3)」を参照してください。
6. 「6.3.2 サーバの再起動を伴う活性保守 (4)」に従って、保守作業の終了したサーバを vSphere HA へ組み込みます。

- コンバートドファブリックスイッチのファームウェア V02.40 NY0056 以降を使用している場合、「6.4.3.1 オンボード CNA カード、CNA 拡張 PCI カードの交換手順」の「■ コンバートドファブリックスイッチの設定」の手順 3 以降を以下の手順に読み替えて実施してください。

3. 動作中構成定義情報 (FCF 情報) とゾーン情報を表示し、保守対象の CNA カードが該当する SAN モードシステム、Zone 名を確認します。

```
#show running-config fcf                                ## 動作中構成定義情報 (FCF情報) の表示
[Machine status:root/master Switch:1/1]
fcf a                                                    ## FCF-ID (SANモード系統)
    auto-vfc off
    active-zoneset SVFABA
    use on
    vfc 1
        bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
        exit
    vfc 2
        bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
        exit
    vfc 3
        exit
    ...
    zone zoneA1                                         ## Zone名
        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
        ...
        exit
    zone zoneA2                                         ## Zone名
        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
        ...
        exit
    zoneset SVFABA
        member-zone zoneA1
        member-zone zoneA2
        ...
        exit
    exit
fcf b                                                    ## FCF-ID (SANモード系統)
    auto-vfc off
    active-zoneset SVFABB
    use on
    vfc 1
        bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
        exit
    vfc 2
        bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
```

```

        exit
vfc 3
        exit
...
zone zoneB1                ## Zone名
    member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
    member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
    ...
    exit
zone zoneB2                ## Zone名
    member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
    member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
    ...
    exit
...
zoneset SVFABB
    member-zone zoneB1
    member-zone zoneB2
    ...
    exit
exit

#show fcf zoneinfo        ## ゾーン情報の表示
[FCF: a]                  ## FCF-ID(SANモード系統)
Active Zoneset
    SVFABA
        zoneA1                ## Zone名
            XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
            XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
            ...
        zoneA2                ## Zone名
            XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
            XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
            ...
...
[FCF: b]                  ## FCF-ID(SANモード系統)
Active Zoneset
    SVFABB
        zoneB1                ## Zone名
            XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
            XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
            ...
        zoneB2                ## Zone名
            XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
            XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
            ...
...

```

4. Global-Config モードへ移行します。

```
#Configure  
(config)#
```

- 「表 6.8 CNA カードの交換とファブリックスイッチ」を参照し、交換した CNA カードの該当ゾーニングの FCF-Config モードへ移行します。

```
(config)#fcf <fcf-id>  
(config-fcf)#
```

例: SANモード系統AにつながるCNAを交換した場合

```
(config)#fcf a
```

- 「表 6.8 CNA カードの交換とファブリックスイッチ」を参照し、交換した CNA カードに該当する FCF-Zone-Config モードへ移行します。

```
(config-fcf)#zone <zone-id>  
(config-fcf-zone)#
```

例: SANモード系統AにつながるCNAを交換した場合

```
(config-fcf)#zone zoneA1
```

POINT

- 該当ゾーニングから交換前CNAカードのWWPNの削除 (no member-port) と交換後CNAカードのWWPNの登録 (member-port) を同時に行うことはできません。

- 交換前 CNA カードの WWPN を該当ゾーニングから削除します。

「表 6.6 CNA カードの WWPN(交換前、交換後)」を参照し、該当ゾーニングから交換前の CNA カードの WWPN を削除してください。

```
(config-fcf-zone)#no member-port <wwpn>
```

例: 交換前CNAカードのポート0-WWPNが00:00:00:00:00:00:00:00の場合

```
(config-fcf-zone)#no member-port 00:00:00:00:00:00:00:00
```

- FCF-Config モードへ戻ります。

```
(config-fcf-zoneset)#exit  
(config-fcf)#
```

- 該当するすべてのゾーンに対して、手順 6～手順 8 を繰り返します。

例: SAN モード系統 A につながる CNA を交換した場合は、zoneA2 ~ zoneA6(最大)に対して、手順 6～手順 8 を繰り返します。

- Global-Config モードに戻ります。

```
(config-fcf)#exit  
(config)#
```

- 設定を保存します。

```
(config)#save
```

- 設定を反映します。

```
(config)#commit
```

- 「表 6.8 CNA カードの交換とファブリックスイッチ」を参照し、交換した CNA カードの該当ゾーニングの FCF-Config モードへ移行します。

```
(config)#fcf <fcf-id>  
(config-fcf)#
```

```
例: SANモード系統AにつながるCNAを交換した場合
(config)#fcf a
```

14. 「表 6.8 CNA カードの交換とファブリックスイッチ」を参照し、交換した CNA カードに該当する FCF-Zone-Config モードへ移行します。

```
(config-fcf)#zone <zone-id>
(config-fcf-zone)#
```

```
例: SANモード系統AにつながるCNAを交換した場合
(config-fcf)#zone zoneA1
```

15. 交換後 CNA カードの WWPN を該当ゾーニングに追加します。

「表 6.6 CNA カードの WWPN(交換前、交換後)」を参照し、該当ゾーニングから交換後の CNA カードの WWPN を追加してください。

```
(config-fcf-zone)#member-port <wwpn>
```

```
例: 交換後CNAカードのポート0-WWPNが00:00:00:00:00:00の場合
(config-fcf-zone)#member-port 00:00:00:00:00:00:00
```

16. FCF-Config モードへ戻ります。

```
(config-fcf-zoneset)#exit
(config-fcf)#
```

17. 該当するすべてのゾーンに対して、手順 14～手順 16 を繰り返します。

例: SAN モード系統 A につながる CNA を交換した場合は、zoneA2 ~ zoneA6(最大)に対して、手順 14～手順 16 を繰り返します。

18. Global-Config モードに戻ります。

```
(config-fcf)#exit
(config)#
```

19. 設定を保存します。

```
(config)#save
```

20. 設定を反映します。

```
(config)#commit
```

21. 動作中構成定義情報 (FCF 情報) とゾーン情報を表示し、保守対象の CNA カードの WWPN が該当する SAN モード系統、Zone 名に登録されていることを確認します。

```
(config)#show running-config fcf ## 動作中構成定義情報 (FCF情報) の表示
```

```
...
```

```
(config)#show fcf zoneinfo ## ゾーン情報の表示
```

```
...
```

POINT

- CFX2000のゾーン情報は、更新情報が反映されるのに数分かかります。

22. Privileged Exec モードに戻ります。

```
(config)#exit
#
```

23. コンバージドファブリックスイッチからログアウトします。

```
#quit
```

■ **「A.3.8 ServerView Fabric Manager に関する留意事項」を追加してください。**

ServerView Fabric Manager に関する留意事項については、「ServerView Fabric Manager ご使用上の留意・注意事項」を参照してください。「ServerView Fabric Manager ご使用上の留意・注意事項」は、以下の URL の「BX900/BX400 オプションマニュアル Web ページ内の「コネクションブレード」からダウンロードしてください。(*1)

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/peri_blade.html

*1: ServerView Fabric Manager V2.02.05 以降で出荷されます。

2. 「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud CRB200V1(Hyper-V, RX2530/DX), PRIMEFLEX for Cloud CRB500V1(Hyper-V, RX2530/DX) バックアップ・リストア、サーバ増設ガイド」への訂正事項

■ 「3.1.1.3. ETERNUS への接続ポート制限」および「3.1.3.1. ETERNUS への接続ポート解放」を削除します。

管理兼業務サーバ／業務サーバのリストア作業において、「3.1.1.3. ETERNUS への接続ポート制限」の作業を実施すると、リストア対象サーバ以外のサーバについても、ETERNUS への接続ポートが制限されてしまいます。このため、本作業は実施しないでください。

また、本作業手順が不要となるため、リストア後の作業として、「3.1.3.1. ETERNUS への接続ポート解放」の作業は実施不要となります。

【修正箇所1】

<修正前>

3.1.1.3. ETERNUS への接続ポート制限

- (1) CFX2000R コンバインドファブリックスイッチ#1 へ telnet 接続します。

項目	設定値
CFX2000R#1コンバインドファブリックスイッチ 代表ファブリックIP アドレス	PRIMEFLEX_for_Cloud_CRB200/CRB500_Hyper-V_CFX2000R_環境設定書[CFX2000R #1]シート-[2. コンバインドファブリック設定]-[ネットワーク]-[FABLIC IPADDRESS]
ユーザーID	admin
パスワード	PRIMEFLEX_for_Cloud_CRB200/CRB500_Hyper-V_CFX2000R_環境設定書[CFX2000R #1]シート-[2. コンバインドファブリック設定]-[管理者パスワード]- [password admin set]

- (2) 下記コマンドにて、ETERNUS への接続ポート(1/1/0/11、1/1/0/12、1/2/0/11、1/2/0/12)をオフライン状態にします。

```
CFX2000R#1(1/1/1)# offline ether 1/1/0/11,1/1/0/12,1/2/0/11,1/2/0/12
```

- (3) telnet 接続を終了します。

重要

- 本手順を実施することで、一時的に以下の状態となります。
 - ・ 管理兼業務サーバ
ストレージアクセスなし
 - ・ 業務サーバ
ストレージアクセスなし

<修正後>

全文削除

【修正箇所2】

<修正前>

3.1.3.1. ETERNUS への接続ポート解放

- (1) CFX2000R#1 コンバージドファブリックスイッチへ telnet 接続します。

項目	設定値
CFX2000R#1コンバージドファブリックスイッチ 代表ファブリック IP アドレス	PRIMEFLEX_for_Cloud_CRB200/CRB500_Hyper-V_CFX2000R_環境設定書[CFX2000R #1]シート-[2. コンバージドファブリック設定]-[ネットワーク]-[FABRIC IPADDRESS]
ユーザーID	admin
パスワード	PRIMEFLEX_for_Cloud_CRB200/CRB500_Hyper-V_CFX2000R_環境設定書[CFX2000R #1]シート-[2. コンバージドファブリック設定]- [管理者パスワード]- [password admin set]

- (2) 下記コマンドにて、ETERNUS への接続ポート(1/1/0/11、1/1/0/12、1/2/0/11、1/2/0/12)をオンライン状態にします。

```
CFX2000R#1(1/1/1)# online ether 1/1/0/11,1/1/0/12,1/2/0/11,1/2/0/12
```

- (3) telnet 接続を終了します。

<修正後>
全文削除

■ 「4.3.2. DHCP サーバの設定」の冒頭を以下に訂正します。

プロファイル管理機能を使用してサーバ増設するには、DHCP サーバの設定が必要となります。PRIMEFLEX for Cloud CRB200, PRIMEFLEX for Cloud CRB500 モデルは出荷時に DHCP サーバをインストールして出荷していますが、サービスは停止した状態となっています。このため、自動認識を使用する場合は DHCP サービスの有効化とスコープ設定を実施してください。

■ 「4.3.3. インストールに使用する DVD のインポート」の以下を削除します。

- 工場出荷時、DVD データはインポートされていません。初めてサーバを増設する場合はインポートが必要です。

■ 「4.3.3. インストールに使用する DVD のインポート」の以下を訂正します。

重要

- 項目 1 は下記 URL からダウンロードしてください。
<http://azby.fmworld.net/app/customer/driversearch/ia/drviaindex?>
- 本章で説明する設定方法は、出荷時の構成および設定状況を想定しています。お客さまが運用中に変更した設定は考慮されていません。お客さまで設定を変更した場合は、運用中の環境に合わせた設定が必要です。

- (6) SVS DVD または Windows OS インストールメディアを DVD ドライブに挿入するか、ISO イメージをマウントします。

■ 「4.3.4. 増設サーバの登録」(14)を以下に訂正します。

重要

- DHCP 設定で割り当てた IP アドレスの数以上の台数のサーバを一度に増設した場合は、DHCP で IP アドレスが割り当てられたサーバだけが自動検出されます。自動検出されたサーバに対して手順 (15) ~ (18) を実行したあと、手順 (12) に戻って残りのサーバについて作業を実施してください。

■ 「4.6.1. ServerView Operations Manager への登録」を以下に訂正します。

ServerView Operations Manager へ増設サーバを登録します。

『ServerView Operations Manager V6.30 Server Management 取扱説明書』-「4 サーバリストの管理」-「4.5 オブジェクトの定義と追加」-「4.5.1 サーバブラウザ画面でのオブジェクトの追加」を参照し、インフラ管理 VM にインストールされている ServerView Operations Manager へ増設サーバを登録してください。

また、サーバ増設を実施すると SVOM のサーバリストに増設サーバが自動で登録されますが、管理 OS ではなく iRMC が登録されます。以下の手順を実施して、サーバリストから増設サーバの iRMC を削除し、管理 OS を登録してください。

■ 「4.6.2. ServerView infrastructure Manager への設定」を以下に訂正します。

ServerView infrastructure Manager への増設サーバのノードライセンス登録と ServerView Infrastructure Manager へ増設サーバのグループ設定、消費電力設定、ログ収集、ログの転送設定をします。

『FUJITSU Software ServerView infrastructure Manager V1.3 ユーザーズマニュアル』を参照し、インフラ管理 VM にインストールされている ServerView infrastructure Manager へ増設サーバに対する登録後の設定を実施してください。

■ 「4.6.6. その他 管理ソフトウェアへ登録」に以下を追記します。

重要

- 業務 LAN を追加されている場合は、管理 OS での業務 LAN の追加が必要となります。

3. 「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud CRB200V1(Hyper-V, RX2530/DX), PRIMEFLEX for Cloud CRB500V1(Hyper-V, RX2530/DX) 設置ガイド」への訂正事項

■ 「2.1.1PRIMERGY RX2530 M1」の「図 2.8 前面のコントロールと表示ランプ」に以下を追記いたします。

注)光ディスクドライブのモデルによっては、アクセス表示ランプは搭載されていません。

4. 「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud CRB200 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) PRIMEFLEX for Cloud CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) 利用ガイド」への追記事項

- 「6.4.6 ストレージ」の「(2) コントローラーモジュール(CM)／チャネルアダプター(CA)の交換」に以下を追記いたします。

■ 部品交換後の確認作業

ETERNUS の CA 交換後、ETERNUS の CM の MAC アドレスが変わる場合があります。以下の手順にて、ETERNUS の CM の MAC アドレスとコンバードファブリックスイッチ (CFX2000) に設定されている ETERNUS の CM の MAC アドレスを確認し、異なっている場合には、CFX2000 に設定されている ETERNUS の CM の MAC アドレスを再設定する必要があります。

1. ETERNUS にログインして CM の MAC アドレスを確認しておきます。
2. CFX2000 の動作中構成定義情報 (FCF 情報) を参照し、保守対象の CA カードが該当する MAC アドレスを確認します。

```
fcf a
  auto-vfc off
  active-zoneset SVFABA
  use on
  vfc 1
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:44
    exit
  vfc 2
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:62
    exit
  vfc 3
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:82
    exit
  vfc 4
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:48
    exit
  vfc 13
    exit
  ....
fcf b
  auto-vfc off
  active-zoneset SVFABB
  use on
  vfc 1
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:45
    exit
  vfc 2
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:63
    exit
  vfc 3
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:83
```

```
    exit
vfc 4
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:49
    exit
vfc 13
    exit
.....
```

3. ETERNUS にログインして確認した MAC アドレスと、上記 2 で確認した MAC アドレスが異なっている場合、以下の手順にて MAC アドレスを変更します。例として vfc 3 で設定されている ETERNUS の CM の MAC アドレスが変更されている場合の手順を示します。変更は fcf a と fcf b の両方に対して実施します。

```
configure
fcf a
vfc 3
no bind mac-address
bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
exit
exit
save
commit

fcf b
vfc 3
no bind mac-address
bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
exit
exit
save
commit
```

5. 「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud フィールド増設オプション増設ガイド(共通)」への訂正事項

■ 「2.2.2.2 ServerView Infrastructure Manager への登録」を以下に訂正します。

- 「2.2.2.1 登録用ファイルの作成」で作成した facility_list.csv をインフラ管理 VM の任意の場所に格納します。
- インフラ管理 VM でスタート画面から [ServerView Infrastructure Manager] を起動します。
- ログイン画面が表示されるので、以下を入力し、ログインします。

項目	設定値
ユーザー	crbadmin
パスワード	ソフトウェアパスワード

- サブメニューから [Facility Browser] をクリックします。

POINT

- セキュリティ警告画面が表示された場合は、[許可する] ボタンをクリックします。

- [ファイルを開く] をクリックし、手順 1 で格納した facility_list.csv を選択します。
- [整合性確認] ボタンをクリックします。分析が終了したら [OK] ボタンをクリックします。
- [登録] をクリックします。登録が終了したら [OK] をクリックします。
- 追加登録を反映するため、サービス「ServerView Infrastructure Manager Service」を再起動します。
- [ServerView Infrastructure Manager] のサブメニューから [Facility Manager] をクリックします。
- 追加したドライブエンクロージャがワークエリアに追加されていることを確認します。
- [一覧] タブ内のツリーを展開し、ラックを右クリックします。[消費電力制御設定] を実行します。
- [消費電力制御設定] 画面が開きます。増設機器の「最大消費電力」欄が空白になっています。右下の[デフォルト] ボタンをクリックすることで、デフォルト値が入力されます。

The screenshot shows the 'Rack-1 消費電力制御設定' (Rack-1 Power Consumption Control Settings) window. The table below represents the data shown in the interface:

機器	最大消費電力	固定電力値	消費電力	優先度
SW DXTAX2	300	<input checked="" type="checkbox"/>		
SW DXTAX1	300	<input checked="" type="checkbox"/>		
SW DXSRX1	300	<input checked="" type="checkbox"/>		
SV DXRX2	300	<input type="checkbox"/>	116w	Medi...
SV DXRX1	300	<input type="checkbox"/>	155w	Medi...
ST DX100-1	300	<input checked="" type="checkbox"/>		

At the bottom of the window, the summary shows: 合計: 1800 w (Maximum), 1200 w (Fixed), 1471 w (Current). A 'デフォルト' (Default) button is highlighted in the bottom left corner.

13. [設定] ボタンをクリックすると、設定処理が実行されます。処理が終了したら[閉じる] ボタンをクリックして[消費電力制御設定] 画面を閉じます。
14. [Facility Manager] 画面の左下にある [グループレビュー] を選択します。
15. 既存のグループ名を右クリックし、[グループ編集] を選択します。
16. [機器タイプ] で [全ての機器] を選択します。
17. [ファシリティ機器リスト] に登録した機器が表示されていることを確認します。[すべて>>>] をクリックし、[グループ対象ファシリティ機器リスト] に移動します。[保存] をクリックします。
18. 画面右上の [ログアウト] リンクをクリックし、ServerView Infrastructure Manager からログアウトします。

■ 「第2章 ストレージエンクロージャ増設オプション」を以下に訂正します。

本章では、ストレージエンクロージャ増設オプションにおける ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 ドライブエンクロージャ(以降、ドライブエンクロージャと表記)の増設手順について説明します。

重要

- PRIMEFLEX for Cloud の増設オプションのみが対象です。その他のドライブエンクロージャについてはサポート対象外です。
- 本章で説明する設定方法は、出荷時の構成および設定状況を想定しています。お客さまが運用中に変更した設定は考慮されていません。お客さまで設定を変更した場合は、運用中の環境に合わせた設定が必要です。

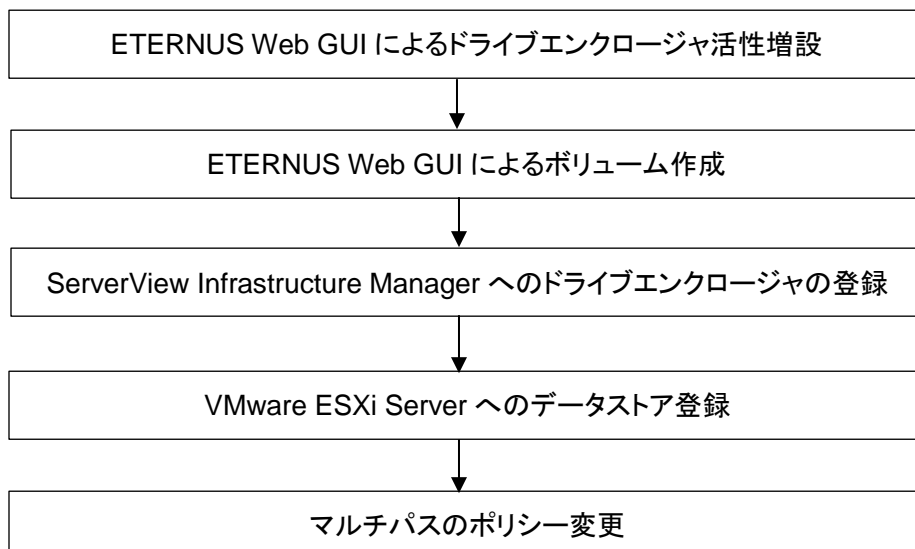
2.1. ドライブエンクロージャ増設の流れ

ここでは、ドライブエンクロージャ増設の流れについて説明します。

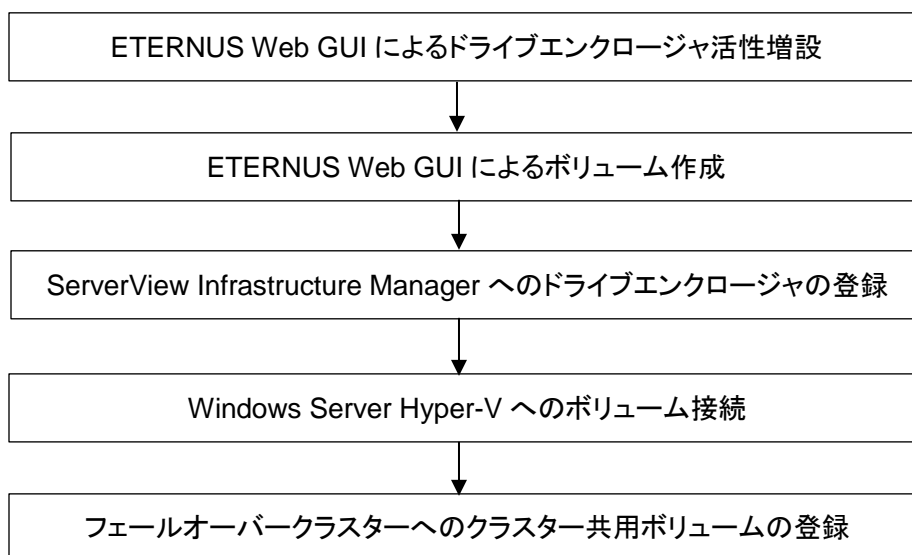
2.1.1. ドライブエンクロージャの増設

ドライブエンクロージャの増設の流れは以下のとおりです。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX)の場合]



[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) の場合]



2.2. ドライブエンクロージャの増設手順

ドライブエンクロージャの増設手順を説明します。

2.2.1. ETERNUS Web GUI によるドライブエンクロージャ活性増設

『ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 運用ガイド(基本編)』に従って、ドライブエンクロージャの増設を行います。

1. 管理端末で Web ブラウザを起動し、アドレス欄に以下を入力します。

http://[ETERNUS の Master IP アドレス]

項目	設定値
IP アドレス	ETERNUS の Master IP アドレス

2. ログイン画面が表示されるので、以下を入力し、ログインします。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザ ID	crbadmin@<ドメイン名>
パスワード	ソフトウェアパスワード

[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザ ID	root
パスワード	ハードウェアパスワード

3. メニューバーから [コンポーネント] タブを選択し、コンポーネント画面を表示します。
4. ドライブエンクロージャの増設を行います。
『ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 運用ガイド(基本編)』 - 「第 5 章 増設／機能拡張」 - 「5.2 ドライブエンクロージャの増設」の手順に従って、対象のドライブエンクロージャを増設します。

POINT

- 1 台目のドライブエンクロージャを増設する場合は、上記マニュアルの「5.2.3 ドライブエンクロージャの増設手順」手順 10～12 の作業は必要ありません。

5. ドライブの増設を行います。
『ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 運用ガイド(基本編)』 - 「第 5 章 増設／機能拡張」 - 「5.1 ドライブの増設」の手順に従って、対象のドライブを増設します。

2.2.2. ETERNUS Web GUI によるボリューム作成(3.5 インチドライブエンクロージャ増設時は不要)

『ETERNUS Web GUI ユーザーズガイド(設定編)』に従って、増設したドライブエンクロージャに対してボリュームの作成を行います。

1. 管理端末で Web ブラウザを起動し、アドレス欄に以下を入力します。

http://[ETERNUS の Master IP アドレス]

項目	設定値
IP アドレス	ETERNUS の Master IP アドレス

2. ログイン画面が表示されるので、以下を入力し、ログインします。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザ ID	crbadmin@<ドメイン名>
パスワード	ソフトウェアパスワード

[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザ ID	root
パスワード	ハードウェアパスワード

3. メニューバーから [RAID グループ] タブを選択し、RAID グループ画面を表示します。

- RAID グループの作成を行います。
『ETERNUS Web GUI ユーザーズガイド(設定編)』 - 「第 5 章 RAID グループの管理」 - 「5.1. RAID グループの作成」 - 「■使用するドライブを手動で選択する場合」の手順に従って、RAID グループを作成します。

重要

- 既存の PRIMEFLEX for Cloud と RAID グループ名が重複しないように、命名してください。
- RAID グループを構成するディスクドライブ数は、サーバタイプにより異なります。
ブレードサーバタイプ
RAID1+0 → ディスクドライブ 8 本で 1RAID グループ
RAID6 → ディスクドライブ 6 本で 1RAID グループ
ラックサーバタイプ
RAID 構成によらず、ディスクドライブ 8 本で 1RAID グループ
- 作成する RAID グループの数だけ手順を繰り返してください。

POINT

- RAID グループ作成画面でドライブを選択する際は、スロット番号が小さいものから順に選択してください。

設定項目を以下に示します。

項目	設定値
名前	vms_raid_<3 桁の数字> 備考 <3 桁の数字>には、現在設定されているものから連続した数字を入力する。
作成モード	手動
RAID レベル	適切なものを以下から選択する。 High Performance (RAID1+0) High Reliability (RAID6)
担当 CM	自動
Stripe Depth (高度な設定タブを展開)	64KB

- メニューバーから [ボリューム] タブを選択し、ボリューム画面を表示します。
- ボリュームの作成を行います。
『ETERNUS Web GUI ユーザーズガイド(設定編)』 - 「第 3 章 ボリュームの管理」 - 「3.1. ボリュームの作成」 - 「■ボリュームの作成先を手動で選択する場合」の手順に従って、RAID グループを作成します。

重要

- 既存の PRIMEFLEX for Cloud とボリューム名が重複しないように、命名してください。
- 1RAID グループにつき 1 ボリュームを作成します。
- 作成するボリュームの数だけ手順を繰り返してください。

POINT

- ボリュームの作成先の RAID グループには、名前の<3桁の数字>が一致するものを選択します(対象 RAID グループ名のボリューム数を「1」にします)。

設定項目を以下に示します。

項目	設定値(ブレードサーバ)	設定値(ラックサーバ)
名前	vms_vol_<3桁の数字> 備考 <3桁の数字>には、現在設定されているものから連続した数字を入力	
容量	3278 (GB) (RAID1+0 構成、RAID6 構成とも同じ値)	RAID1+0 構成: 3278(GB) RAID6 構成: 4917(GB)
タイプ	Standard	
ボリューム容量 SDV のみ	<空白>	
RAID グループ/TPP の選択	手動	
最大空き容量をすべて使用	チェックしない	
ボリューム No.	チェックしない	
CM による暗号化	無効	

7. メニューバーから [接続性] タブを選択し、接続性画面を表示します。
8. カテゴリーから [LUN グループ] を選択します。
9. LUN グループの変更を行います。
手順 6 で作成したボリュームを既存の LUN グループに追加するため、LUN グループの変更を行います。
『ETERNUS Web GUI ユーザーズガイド(設定編)』 - 「第 4 章 接続性の管理」 - 「4.4. LUN グループ管理」 - 「4.4.3. LUN グループの変更」の手順に従って、LUN グループを行ってください。
(LUN グループの名称変更は必要ありません)

重要

- ボリュームの追加方法は、サーバタイプにより異なります。
ブレードサーバタイプ
afg_100 を除く全ての LUN グループに、手順 4 で作成した全てのボリュームを追加します。
afg_100 を除く全ての LUN グループの数だけ手順 9 を繰り返してください。
ラックサーバタイプ
全ての LUN グループに手順 4 で作成した全てのボリュームを追加します。

POINT

- 各ボリュームの番号は、LUN 追加画面の[▼ボリューム選択] – [No]に表示されます。

LUN グループに対して複数のボリュームを 1 度に追加する場合は、[▼LUN 設定]以下の設定値を入力し、[OK]を選択します。

項目	設定値
LUN 開始番号	<手順 6 で作成したボリュームのうち、最小のボリューム番号>
LUN 数	<手順 6 で作成したボリューム数>

LUN グループに対してボリュームを個々に追加する場合は、[▼ボリューム選択]、手順 6 で作成したボリュームを選択し、[OK]を選択します。

2.2.3. ServerView Infrastructure Manager へのドライブエンクロージャの登録

『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager ユーザーズマニュアル』に従って、ServerView Infrastructure Manager にドライブエンクロージャを登録します。

2.2.3.1 登録用ファイルの作成

ServerView Infrastructure Manager に現在登録されている情報を確認し、ドライブエンクロージャ追加登録用ファイルを作成します。

1. 管理端末でリモートデスクトップを起動します。コンピューターに IP アドレスを入力し、インフラ管理用仮想マシン(以降、インフラ管理 VM と表記)へ接続します。

項目	設定値
IP アドレス	インフラ管理 VM の IP アドレス

2. 以下のアカウントでログインします。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザー名	<ドメイン名>%crbadmin
パスワード	ソフトウェアパスワード

[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザー名	<ドメイン名>%Administrator
パスワード	ソフトウェアパスワード

3. スタート画面から [ServerView Infrastructure Manager] を起動します。
4. ログイン画面が表示されるので、以下を入力し、ログインします。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザー	crbadmin
パスワード	ソフトウェアパスワード

[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザー	Administrator
パスワード	ソフトウェアパスワード

5. サブメニューから [Facility Manager] をクリックします。

POINT

- セキュリティ警告画面が表示された場合は、[許可する]ボタンをクリックします。

6. 構成情報を確認します。
各部の名称については、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager ユーザーズマニュアル』の「[FacilityManager] 画面」を参照してください。

・センター情報

[ツリーエリア] - [一覧] タブでセンター名を確認します。

名称

[ツリーエリア] - [一覧] タブでセンター名を展開し、所属するラック数を確認します。

ラック数

・ラック情報

[ツリーエリア] - [一覧] タブでラック名を右クリックし、[プロパティ] を選択して以下の項目を確認します。

タブ名称	
プロパティ	ラック名
	ラック番号

[ツリーエリア] - [一覧] タブでラック名をクリックし、「ワークエリア」からラックのユニット数を確認します。

POINT

- ラックの図の左側に表示されている数字のうち、最上位の値がユニット数です。

ユニット数

・コントローラーエンクロージャ情報

[ツリーエリア] - [一覧] タブで、増設する ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 のコントローラーエンクロージャが搭載されているラック名をクリックし、「ワークエリア」を表示します。
「ラック搭載機器」から対象の ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 コントローラーエンクロージャを右クリックし、[プロパティ]を選択して以下の項目を確認します。

タブ名称	
プロパティ	機器名
	IP アドレス

7. Microsoft Excel がインストールされている環境で ServerView Infrastructure Manager 登録データ作成ツールを使用し、構成情報を作成します。
『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager ユーザーマニュアル』の「運用」 - 「Facility Manager での機器登録」を参照し、登録データ (facility_list.csv) を作成します。

重要

- ServerView Infrastructure Manager のバージョンにより、設定を変更できる項目は異なります。グレーアウトして入力できない項目は入力不要です。

以下に設定例を示します。詳細については、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager ユーザーマニュアル』を参照してください。

・[センター情報編集] 画面 項目

POINT

- 以下の表の項目以外は、変更不要です。

項目	設定値
ID	1
名称	手順 6 で確認した値を入力 [センター情報] - [プロパティ] - [名称]
ラック列	1
ラック数	手順 6 で確認した値を入力 [センター情報] - [ラック数]

・[ラック情報編集] 画面 項目

POINT

- センター情報で入力したラックの数だけ設定を行います。
- 以下の表の項目以外は、変更不要です。

項目	設定値
ラック番号	手順 6 で確認した値を入力 [ラック情報] - [プロパティ] - [ラック番号]
ユニット数	手順 6 で確認した値を入力 [ラック情報] - [ユニット数]
ラック名	手順 6 で確認した値を入力 [ラック情報] - [プロパティ] - [ラック名]

・構成情報一覧 項目 (ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 コントローラーエンクロージャ)

POINT

- 以下の表の項目以外は、変更不要です。
- ドライブエンクロージャのみの入力できないため、コントローラーエンクロージャも併せて設定します。
- facility_list.csv には増設するドライブエンクロージャのみを出力します。Output Select の設定値を対象のドライブエンクロージャのみ「Y」にし、その他の機器は「N」に設定します。

項目	設定値	
Output Select	N	N
FacilityName	手順 6 で確認した値を入力 [コントローラーエンクロージャ 情報] - [プロパティ] - [機器名]	-
ParentName	<空白>	手順 6 で確認した値を入力 [コントローラーエンクロージャ情 報] - [プロパティ] - [機器名]

・構成情報一覧 項目 (ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 ドライブエンクロージャ)

項目	設定値
Output Select	Y
No.	<自動入力された値>
FacilityName	<ドライブエンクロージャの機器名を入力> (名前は任意)
ParentName	手順 6 で確認した値を入力 [コントローラーエンクロージャ情報] - [プロパティ] - [機器名]
NetAddress	<空白>
Type	18

項目	設定値
Sensor	0
Port/SlotNo	0
Community	<空白>
PollInterval	60
RackNo	<搭載されているラック番号を入力>
RackAreaNo	<ラック内の搭載位置を入力>
RackNumberUnits	2
Notes	以下から適切なものを入力する。 DX100S3 DX200S3
VenderID	1
Model	以下から適切なものを入力する。 ETERNUS DX100 S3 ETERNUS DX200 S3
System	<空白>
S/N	<空白>
ProductNo	以下から適切なものを入力する。 ETFEAD-L (2.5 インチドライブエンクロージャの場合) ETFEBD-L (3.5 インチドライブエンクロージャの場合)
EquipmentDate	<設置年月日を記入>
Application	http://[NetAddress] (コントローラーエンクロージャと同じ値)

・構成情報一覧 項目(その他の構成機器)

POINT

- 以下の表の項目以外は、変更不要です。
- 本書手順の対象ではないため、その他すべての構成機器に対して Output Select の設定値を「N」に設定します。

項目	設定値
Output Select	N

2.2.3.2 ServerView Infrastructure Manager への登録

1. 「2.2.3.1 登録用ファイルの作成」で作成した facility_list.csv をインフラ管理 VM の任意の場所に格納します。
2. インフラ管理 VM でスタート画面から [ServerView Infrastructure Manager] を起動します。
3. ログイン画面が表示されるので、以下を入力し、ログインします。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザー	crbadmin
パスワード	ソフトウェアパスワード

[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザー	Administrator
パスワード	ソフトウェアパスワード

4. サブメニューから [Facility Browser] をクリックします。

POINT

- セキュリティ警告画面が表示された場合は、[許可する] ボタンをクリックします。

5. [ファイルを開く] をクリックし、手順 1 で格納した facility_list.csv を選択します。
6. [整合性確認] ボタンをクリックします。分析が終了したら [OK] ボタンをクリックします。
7. [登録] をクリックします。登録が終了したら [OK] をクリックします。
8. 追加登録を反映するため、サービス「ServerView Infrastructure Manager Service」を再起動します。
9. [ServerView Infrastructure Manager] のサブメニューから [Facility Manager] をクリックします。
10. 追加したドライブエンクロージャがワークエリアに追加されていることを確認します。
11. [一覧] タブ内のツリーを展開し、ラックを右クリックします。[消費電力制御設定] を実行します。

12. [消費電力制御設定] 画面が開きます。増設機器の「最大消費電力」欄が空白になっています。右下の[デフォルト] ボタンをクリックすることで、デフォルト値が入力されます。



13. [設定] ボタンをクリックすると、設定処理が実行されます。処理が終了したら[閉じる] ボタンをクリックして[消費電力制御設定] 画面を閉じます。
14. [Facility Manager] 画面の左下にある [グループ一覧] を選択します。
15. 既存のグループ名を右クリックし、[グループ編集] を選択します。
16. [機器タイプ] で [全ての機器] を選択します。
17. [ファシリティ機器リスト] に登録した機器が表示されていることを確認します。[すべて>>] をクリックし、[グループ対象ファシリティ機器リスト] に移動します。[保存] をクリックします。
18. 画面右上の [ログアウト] リンクをクリックし、ServerView Infrastructure Manager からログアウトします。

2.2.4. ホストサーバへのボリューム登録

「2.2.2. ETERNUS Web GUI によるボリューム作成」で作成したボリュームをホストサーバで使用するために、ホストサーバへボリュームを認識させます。

2.2.4.1. VMware ESXi Server へのデータストア登録

VMware ESXi Server に、「2.2.2. ETERNUS Web GUI によるボリューム作成」で作成したボリュームをデータストアとして登録します。

POINT

- 1つのホストにデータストアの登録を行うと、すべてのホストに反映されます。

1. 管理端末で VMware vSphere Client を起動します。
2. VMware vCenter Server(仮想化管理 VM)への接続情報を入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

項目	設定値
IP アドレス/名前	仮想化管理 VM の IP アドレス
ユーザー名	crbadmin@<ドメイン名>
パスワード	ソフトウェアパスワード

3. [表示]メニューより、[インベトリ] - [ホストおよびクラスタ] を選択し、[ホストおよびクラスタ] ビューを表示します。
4. ナビゲーションメニューより、[仮想化管理 VM コンピュータ名] - [Datacenter] - [Cluster] - [管理兼業務サーバ#1 ホスト IP アドレス]を選択します。
5. [構成]タブをクリックし、メインウィンドウを構成画面へ切り替えます。
6. 構成画面左側のハードウェアメニューから[ストレージ]を選択します。
7. データストア画面から[ストレージの追加...]リンクをクリックします。
8. ストレージタイプに[ディスク/LUN]が選択されていることを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。
9. 登録するディスク/LUN を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

POINT

- [LUN]に表示されている番号を確認しておきます。
- [LUN]に表示されている番号が小さいものから順に選択してください。

10. ファイルシステムのバージョンに[VMFS-5]が選択されていることを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。
11. 現在のディスクレイアウトが表示されるので、[次へ]ボタンをクリックします。
12. プロパティ画面で、<データストア名>を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

項目	設定値
データストア名	登録するボリューム名と同じ名前を入力

POINT

- 登録するボリューム名は LUN 番号で判断してください。

13. 容量に[使用可能な最大領域]が選択されていることを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。
14. 終了準備の完了画面が表示されるので、[終了]ボタンをクリックします。
15. [VMFS データストアの作成]タスクが完了した後、vSphere Client 画面に作成したデータストアが表示されることを確認します。

POINT

- タスク完了後に追加したデータストアが[データストア]一覧に表示されない場合、[更新]リンクをクリックします。

16. 複数のデータストア登録が必要な場合は、手順 7～15 を繰り返し、データストアの登録を行います。
17. ナビゲーションメニューより、[仮想化管理 VM コンピュータ名] – [Datacenter] – [Cluster] – [管理兼業務サーバ#2 ホスト IP アドレス]を選択します。

POINT

- 登録を行ったホスト(管理兼業務サーバ#1)以外のすべてのホストでデータストアが登録されているかを確認します。

18. [構成]タブをクリックし、メインウィンドウを構成画面へ切り替えます。
19. 構成画面左側のハードウェアメニューから[ストレージ]を選択します。
20. データストア画面に手順 7～15 で登録したデータストアがすべて表示されていることを確認します。

POINT

- 登録を行ったデータストアが表示されない場合は、「すべてを再スキャン…」を選択してください。

21. すべてのホスト(業務サーバ)について、手順 17～20 を繰り返し、データストアが登録されていることを確認します。

2.2.4.2. VMware ESXi Server データストアのマルチパスポリシー変更

引き続き、「2.2.4.1. VMware ESXi Server へのデータストア登録」で登録したデータストアのマルチパスポリシーを変更します。

重要

- 登録したすべてのデータストアに対して操作を行います。
- すべてのデータストアのパスの選択ポリシーを[ラウンドロビン (VMware)]に変更します。

1. 管理端末で VMware vSphere Client を起動します。
2. VMware vCenter Server(仮想化管理 VM)への接続情報を入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

項目	設定値
IP アドレス/名前	仮想化管理 VM の IP アドレス

項目	設定値
ユーザー名	crbadadmin@<ドメイン名>
パスワード	ソフトウェアパスワード

- [表示] メニューより、[インベトリ] - [ホストおよびクラスタ] を選択し、[ホストおよびクラスタ] ビューを表示します。
- ナビゲーションメニューより、[仮想化管理 VM コンピュータ名] - [Datacenter] - [Cluster] - [管理兼業務サーバ#1 ホスト IP アドレス]を選択します。
- [構成]タブをクリックし、メインウィンドウを構成画面へ切り替えます。
- 構成画面左側のハードウェアメニューから[ストレージ]を選択します。
- 「2.2.4.1. VMware ESXi Server へのデータストア登録」で最初に登録したデータストアを右クリックし、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。
- データストアのプロパティ画面で[パスの管理]をクリックします。
- ポリシーのパスの選択から[ラウンドロビン (VMware)]を選択し、[変更]ボタンをクリックします。
- [閉じる]ボタンを順次クリックし、データストアのプロパティ画面を閉じます。
- すべてのデータストアに対して手順 7～10 を繰り返し、データストアのパスの選択ポリシーを変更します。

2.2.4.3. Windows Server Hyper-V ホストへのボリューム登録

Hyper-V サーバに「2.2.2 ETERNUS Web GUI によるボリューム作成」で作成した新規ボリュームを登録します。

POINT

- 1 つのホストにボリューム登録を行うと、アフィニティグループの同じすべてのホストに反映されます。

- 管理端末でリモートデスクトップ接続を起動します。
- 「オプションの表示」をクリックし、全般タブのログオン設定に新規ボリュームを接続したい Hyper-V サーバの接続情報を入力し、[接続]ボタンをクリックします。

項目	設定値
コンピューター	管理兼業務サーバ#1 または業務サーバ#n の IP アドレス
ユーザー	<ドメイン名>¥Administrator
パスワード	ソフトウェアパスワード

- サーバーマネージャーを起動し、ツールメニューから「コンピューターの管理」をクリックします。
- 「コンピューターの管理」コンソールの左ペインの「ディスクの管理」をクリックします。
- 「ディスク nn」(不明 XXXGB、オフライン)と表示された、左の矩形部分を右クリックします。
- 表示されたコンテキストメニューの「オンライン」を選択します。

7. もう一度、「ディスク nn」を右クリックします。
8. 表示されたメニューから、「ディスクの初期化」を選び、オンラインになったハードディスクを初期化します。
9. パーティションの形式に GPT (GUID パーティションテーブル) を選びます。
10. 「未割り当て領域」の部分をクリックして、「新しいシンプルボリューム」を選択します。
11. 「新しいシンプルボリューム」ウィザードが開始されるので「次へ」ボタンをクリックします。
12. 「ボリュームサイズの指定」画面でデフォルトとして、割り当て可能な最大ディスク容量が表示されます。
ここでは、領域のすべてをフォーマットするので、このまま、「次へ」ボタンをクリックします。
13. 「ドライブ文字またはドライブパスの割り当て」画面で、「ドライブ文字またはドライブパスを割り当てない」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。
14. 「パーティションのフォーマット」画面でフォーマット情報を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。

項目	設定値
ファイルシステム	NTFS
アロケーション ユニットサイズ	既定値
ボリュームラベル	管理兼業務サーバ#1 または業務サーバ#n の記憶域情報のボリュームラベル

15. 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」画面で、設定した項目が表示されるので、確認して問題なければ、「完了」ボタンをクリックします。
16. パーティションのフォーマットが開始され、終了するまでしばらく待ちます。
パーティションのフォーマットが完了すると、「未割当て」領域がフォーマットされ、利用可能になります。

2.2.4.4. Windows Server フェールオーバークラスターへのクラスター共有ボリューム登録

Hyper-V サーバに「2.2.4.3. Windows Server Hyper-V ホストへのボリューム登録」で登録されたボリュームをクラスター共有ボリュームとして使用するためには、フェールオーバークラスターへクラスター共有ボリュームとして登録する必要があります。

POINT

- － フェールオーバークラスターマネージャーの操作は、管理兼業務サーバ#1 のみで操作します。

1. 管理端末でリモートデスクトップ接続を起動します。
2. 「オプションの表示」をクリックし、全般タブのログオン設定に新規ボリュームを接続したい Hyper-V サーバの接続情報を入力し、[接続]ボタンをクリックします。

項目	設定値
コンピューター	管理兼業務サーバ#1 の IP アドレス

項目	設定値
ユーザー	<ドメイン名>¥Administrator
パスワード	ソフトウェアパスワード

3. サーバーマネージャーを起動し、ツールメニューから「フェールオーバークラスターマネージャー」をクリックします。
4. 「フェールオーバークラスターマネージャー」画面のコンソールツリーで、<クラスター名>を展開し、[記憶域] を展開します。

項目	設定値
クラスター名	フェールオーバークラスターマネージャーの管理兼業務クラスター名

5. [ディスク] を右クリックし、[ディスクの追加] をクリックします。
6. フェールオーバー クラスターに追加できるディスクの一覧が表示されます。
7. 追加する 1 つまたは複数の新規ボリューム(ディスク)を選択し、[OK] をクリックします。
8. 新規ボリューム(ディスク)が [使用可能記憶域] グループに追加されます。
9. 「フェールオーバークラスターマネージャー」画面の中央ペインの[使用可能記憶域]に割当てられている 1 つまたは複数の新規ボリューム(ディスク)を選択し、それらを右クリックして、[クラスターの共有ボリュームへの追加]をクリックします。
 新規ボリューム(ディスク)が[クラスターの共有ボリューム]グループに割当てられます。
 クラスター共有ボリュームは、各クラスターノードの%SystemDisk%ClusterStorage フォルダの下に番号付きのボリューム (マウントポイント) として公開されます。
 通常は以下の場所となります。
 “C:¥ClusterStorage¥Volumenn”
 ボリュームは、CSVFS ファイルシステムとして表示されます。

ドライブエンクロージャ増設は以上で終了です。

■ 「第3章 ストレージ HDD 増設オプション」を追加します。

本章では、ストレージ HDD 増設オプションにおける ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 コントローラエンクロージャ、あるいは、ドライブエンクロージャへの HDD の増設手順について説明します。

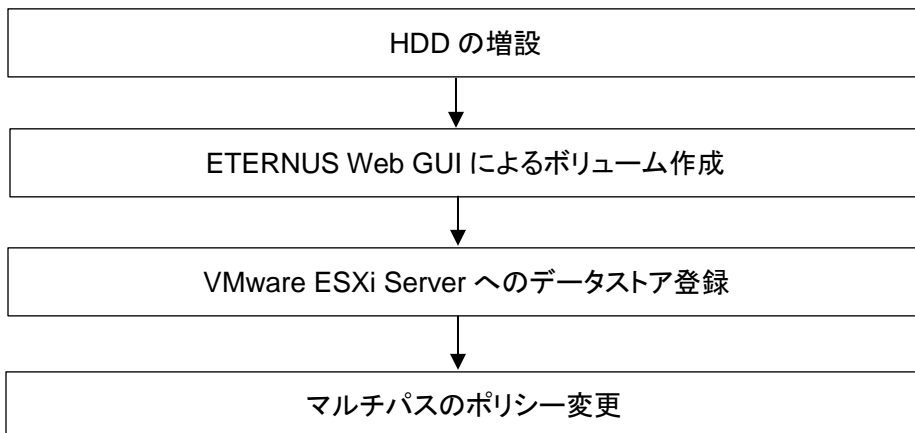
3.1. ハードディスク増設の流れ

ここでは、ハードディスク(以下 HDD)増設の流れについて説明します。

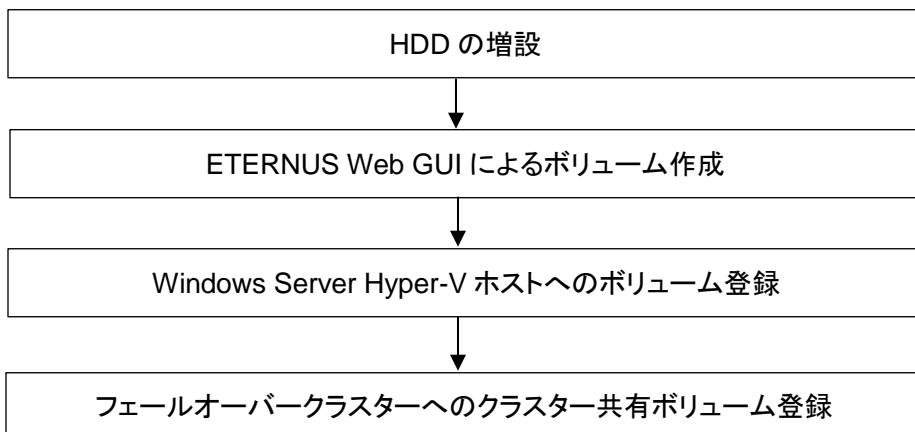
(1) 2.5 インチ HDD 増設の流れ

2.5 インチ HDD は以下の流れで増設します。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX)の場合]

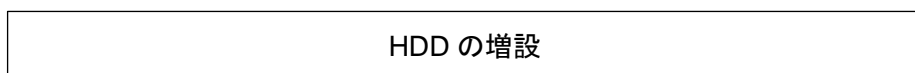


[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX)の場合]



(2) 3.5 インチ HDD 増設の流れ

3.5 インチ HDD は、HDD の増設のみ実施します。



3.2. HDD 増設手順

HDD の増設手順を説明します。

3.2.1. HDD 増設

『ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 運用ガイド(基本編)』 - 「第 5 章 増設／機能拡張」 - 「5.1. ドライブの増設」の手順に従って、HDD の増設を行います。

3.2.2. ETERNUS Web GUI によるボリューム作成

本書内の「第 2 章 ストレージエンクロージャ増設オプション」 - 「2.2.2. ETERNUS Web GUI によるボリューム作成」の内容に従い、ボリュームを作成します。

3.2.3. ホストサーバへのボリューム登録

本書内の「第 2 章 ストレージエンクロージャ増設オプション」 - 「2.2.4. ホストサーバへのボリューム登録」の内容に従い、ボリューム登録します。

POINT

- ホストサーバへのボリューム登録手順は、ホストサーバの種別 (VMware ESXi Server または Windows Server Hyper-V) により異なります。

以上で、ストレージ HDD 増設作業は終了です。

6. 「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud サーバ増設ガイド(RX2530 M2 増設ガイド)」への訂正事項

■ 「1.3. サーバの設置」に以下を追記します。

1.3.1 CNA カードの動作モード確認・設定

1. Personality の設定

- (1) 画面中に下記メッセージが表示された際に、[Ctrl]キーを押しながら[P]キーを押します。

Emulex NN/NN/NNNN UNDI, PXE-2.0 BIOS vNN.N.NNN.NN

Copyright (C) NNNN-NNNN Emulex Corporation

<<< Press <Ctrl><P> for PXESelect(TM) Utility >>>

- (2) “Emulex PXESelect Utility の Controller(s) List”が表示されます。

キーボードの[↑][↓]キーで 上段のコントローラ を選択して、[Enter]キーを押します。

- (3) “Controller Configuration”が表示されます。

キーボードの[↑][↓]キーで Personality を選択して、[←][→]キーで「FCoE」に変更してください。
※既に「FCoE」に設定されている場合は、そのままです。

項目	設定値
CNA Controller #0	Personality FCoE

- (4) [Esc]キーを押します。

手順(3)で Personality を変更した場合、以下のメッセージが表示されますので[Y]キーを押します。

Controller configuration setting are changed.

Do you want to save and continue [Y/N]?

- (5) 再び、“Emulex PXESelect Utility の Controller(s) List”が表示されます。

キーボードの[↑][↓]キーで 下段のコントローラ を選択して、[Enter]キーを押します。

- (6) “Controller Configuration”が表示されます。

キーボードの[↑][↓]キーで Personality を選択して、[←][→]キーで「FCoE」に変更してください。
※既に「FCoE」に設定されている場合は、そのままです。

項目	設定値
CNA Controller #1	Personality FCoE

- (7) [Esc]キーを押します。

手順(3)で Personality を変更した場合、以下のメッセージが表示されますので[Y]キーを押します。

Controller configuration setting are changed.

Do you want to save and continue [Y/N]?

- (8) 再び、“Emulex PXESelect Utility の Controller(s) List”が表示されます。

- (9) [Esc]キーを押します。

以下のメッセージが表示されますので[Y]キーを押します。

マシンが再起動します。

Do you want to exit from the utility [Y/N]?

■ 「1.4.2. DHCP サーバの設定」の冒頭の記事を以下に訂正します。

プロファイル管理機能を使用してサーバ増設するには、DHCP サーバの設定が必要となります。PRIMEFLEX for Cloud は出荷時にDHCP サーバをインストールして出荷していますが、サービスを停止した状態で出荷しています。このため、自動認識を使用する場合は DHCP サービスの有効化とスコープ設定を実施してください。

■ 「1.4.3. インストールに使用する DVD のインポート」の以下を削除します。

工場出荷時はインポートされていないため、初めて増設する場合はインポートが必要です。

- 「1.4.3.1. インポート対象 DVD (iso イメージ) VMware の場合」の「重要」記事を以下に訂正します。

重要

- 項番1は、下記URLからダウンロードしてください。
<http://azby.fmworld.net/app/customer/driversearch/ia/drviaindex?>
- 項番2 は最新版を以下URL のダウンロード画面から取得してください。
<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/>
項番1、2 について詳細は「FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager ユーザーマニュアル」の「5.1 各種DVD のデータインポート」を参照してください。
- 本製品にはホスト (ESXi) のインストール媒体が附属していません。インストールメディアの入手方法については、VMware vSphere の「ソフトウェア説明書」を参照してください。「ソフトウェア説明書」は本製品に添付されている、VMware vSphereのドキュメントに記載されています。

- 「1.4.3.2. インポート対象 DVD (iso イメージ) Hyper-V の場合」の「重要」記事を以下に訂正します。

重要

- 項番1は、下記URLからダウンロードしてください。
<http://azby.fmworld.net/app/customer/driversearch/ia/drviaindex?>
- 項番2 は富士通媒体を除き、以下のMicrosoft サイトからダウンロードして取得してください。
<http://profile.microsoft.com/RegSysProfileCenter/default.aspx?lcid=1041>
項番1、2 について詳細は「FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager ユーザーマニュアル」の「5.1 各種DVD のデータインポート」を参照してください。

- 「1.5.1. MAC アドレスと WWPN の確認」の記事を以下に訂正します。

3. イーサネットポートのエリアからモジュール名が「Onboard CNA」,「CNA PCI Card」となっているスロットid/ポートid/MAC アドレスを確認します。
4. ファイバーチャネル・オーバー・イーサネットポートのエリアからモジュール名が「Onboard CNA」,「CNA PCI Card」となっているスロットid/ポートid/WWPN を確認します。

- 「1.5.2. コンバードファブリックスイッチのゾーニング設定 (NR を除く)」と「1.5.3 ストレージの設定」の記事の間に以下を追記します。

1.5.x コンバードファブリックスイッチの仮想インタフェース設定

1. ターミナルソフトでコンバードファブリックスイッチの代表IPアドレスからSSH接続でログインします。
2. SAN A系に対して、増設サーバに対応する仮想インターフェースを登録します。
configure
(config) # fcf a
(config-fcf) # vfc n ← ここで n は、今回のサーバ増設がm台目ならば、(m+2)

```
(config-fcf-if) # bind auto
```

```
(config-fcf-if) # exit
```

```
(config-fcf) # exit
```

3. SAN B系に対して、増設サーバに対応する仮想インターフェースを登録します。

```
(config) # fcf b
```

```
(config-fcf) # vfc n ← ここで n は、今回のサーバ増設がm台目ならば、(m+2)
```

```
(config-fcf-if) # bind auto
```

```
(config-fcf-if) # exit
```

```
(config-fcf) # exit
```

```
(config) # save
```

```
(config) # commit
```

```
(config) # exit
```

■ 「1.5.3.1. ホストグループの作成【VMware の場合(NR を除く)】」に掲載の表を以下に訂正します。

項目	設定値
ホストグループ名	hsg_[ラック番号][サーバ#n] (例:1 ラック目の 3 台目のサーバの場合[hsg_103]) (例:3 ラック目の 10 台目のサーバの場合[hsg_310])
ホスト名#0	ホストグループ名の後に P0 を付けます (例:ホストグループ名が[hsg_103]の場合[hsg_103P0]) (例:ホストグループ名が[hsg_310]の場合は[hsg_310P0])
ホスト名 #0 に登録する WWN	「1.5.1 MAC アドレスと WWPN の確認」で確認した増設サーバ PES-Port0
ホスト名#1	ホストグループ名の後に P1 を付けます。 (例:ホストグループ名が[hsg_103]の場合[hsg_103P1]) (例:ホストグループ名が[hsg_310]の場合[hsg_310P1])
ホスト名 #1 に登録する WWN	「1.5.1 MAC アドレスと WWPN の確認」で確認した増設サーバ Slot2-Port0 WWN

■ 「1.6.2.1. 増設サーバの ESXi 設定 (VMware の場合)」の以下を削除します。

ISM から OS インストールを行うと自動で vCenter Server のホストとして追加されますので、「5.12.1. ホストの追加」のかわりに vCenter Server に vSphere Client で ログオンし、増設サーバを右クリックし、[vSphere HA 用に再構成] を選択してください。

■ 「1.7.2. ServerView Infrastructure Manager へ設定」を以下に訂正します。

ISMへの増設サーバのノードライセンス登録と ISMへ増設サーバのグループ設定、消費電力設定、ログ収集、ログの転送設定をします。

『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.5 ユーザーズマニュアル』を参照し、インフラ管理 VM にインストールされている ISM へ増設サーバに対する登録後の設定を実施してください。

■ 「1.7.4. その他 管理ソフトウェアへ登録」に以下を追記します。

重要

- 業務LANを追加されている場合は、VMware ESXi/管理OSでの業務LANの追加が必要となります。

以上